

音楽科学習指導案

日時 令和3年6月4日(金) 第5校時
場所 音楽室
対象 1年2組 36人
指導者 教諭 遠矢圭祐

1 題材 「曲想と曲の構成を感じ取って表現しよう」

2 指導目標

- (1) 「主人は冷たい土の中に」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「主人は冷たい土の中に」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【知識及び技能】
- (2) 「主人は冷たい土の中に」の旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「主人は冷たい土の中に」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 「主人は冷たい土の中に」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「主人は冷たい土の中に」に用いられている音楽的要素の特徴と、内容との関わりを理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で「主人は冷たい土の中に」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p>思 「主人は冷たい土の中に」の旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「主人は冷たい土の中に」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>態 「主人は冷たい土の中に」の歌詞や曲想が表す内容及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 教材

「主人は冷たい土の中に（静かに眠れ）」

日本語詞：武井 君子／作曲：S.C.フォスター／編曲：浦田 健次郎
(教育芸術社「中学生の音楽1」より)

5 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材で取り扱う学習指導要領の内容は以下の通りである。

A表現 (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり

(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

[共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

また、内容の取り扱いについて配慮することとして、次の事項が示されている。

(1) イ 音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるよう指導を工夫すること。

エ 生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。

(5) 読譜の指導に当たっては、小学校における学習を踏まえ、 \sharp や \flat の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1 \sharp 、1 \flat 程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること。

以上のことから、音楽の内容や構造、創意工夫を生かした表現について理解し、どのように表現したいのか思いや意図をもち、考えながら合唱活動に取り組む本題材は、音楽科の目指す内容を踏襲するものとする。また、音楽科の研究におけるキーワードである「読譜力」を活用するためにも、本題材は楽譜の難易度としても有効的に活用できると考える。新型コロナウイルス感染症防止のために、歌唱活動等の演奏活動に制限がかかる中、音楽科の目標を達成させるために、歌唱技術だけでなく知識理解や思考・吟味する活動を「読譜」をキーワードに充実させていきたい。さらに、本校では伝統的に合唱活動に取り組み、授業で学んだことと学校生活における音楽活動とのつながりを意識できるようにすることも、主体的かつ感性豊かに、音楽に関わっていこうとする生徒の育成につながると考え、本題材を設定した。

[本題材における共通事項]

音楽を形づくっている要素：旋律、強弱、形式、構成

用語や記号など：フレーズ、調、Andante、フェルマータ

(2) 教材について

1852年、アメリカ合衆国のペンシルバニア州ピッツバーグに生まれたスティーブン・コリンズ・フォス

ター（1826～1864）によって作曲された歌曲である。プランテーションの年老いた主人が亡くなり、奴隷として働いていた黒人たちが、優しく皆に慕われていた主人を偲んで嘆き悲しむ内容が歌われている。曲の構成もシンプルで学習しやすい楽曲となっている。また、小学校時に「静かに眠れ」というタイトルで学習している生徒もいるため、聴きなじみのある曲となる。よって、曲想や曲の構成についての学習に取り組む上で、理解しやすい楽曲であると考え。教科書では、リコーダーを用いてアンサンブルを行う形式になっているが、新型コロナ感染症予防の観点から、歌唱活動とリコーダー活動は同時に行わず、ハミング等により音を重ね合わせる活動や二部合唱を取り入れることで和声の響きについても学習を進めていきたいと考え、本教材を設定した。

(3) 生徒の実態について

本校では、伝統的に合唱活動に取り組んでいる。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から様々な制限はあったが、第1学年の生徒は文化祭のクラス合唱において混声三部合唱に取り組んだ。また、第2学年も60人合唱、第3学年はクラス合唱にそれぞれ取り組んだ。今回は、これから始まる混声合唱の取り組みに向け曲想や曲の構成を学び、和声の響きの美しさを理解するとともに、その美しさを感じ取らせることで今後の活動に繋げていきたいと考える。例年の合唱活動では、各パートリーダーや音楽教科連絡員が中心となり、自主的に練習に取り組む姿が見受けられる。また、歌詞解釈において、それぞれが考えを持ち、議論を重ね、どのように表現するか思いや意図を持つ活動も充実させることができる。しかし、テクスチュア（強弱など）に関しては、それらの直接的な意味についての共通理解しか図られない場面も多く見受けられる。また、歌唱技術のために階名唱等を実施すると、なかなか階名が読めず音の高さを視覚によって楽譜から読み取る事が難しい生徒が多数見受けられた。耳からの情報を頼りに練習に取り組むことが多かったようである。視覚・聴覚どちらからも情報を得て、それらの働きなどについての考えを深めることにより、さらによりよい合唱活動を展開することができるようになるのではないかと考える。

1年2組の生徒は、何事にも積極的に取り組み、とても明るい雰囲気のある学級である。ピアノなどの音楽活動に携わっている生徒も多く、歌唱活動に意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、歌を聴くことは好きだが、歌う事は苦手とする生徒も入学当初のアンケートで見受けられた。授業の中で、声を出すことに少し抵抗を感じている生徒も数名いる現状である。授業以外の活動における課題に対し、その解決へ向け意欲的に周囲と協力しながら取り組むことができているので、今回の学習活動においても、課題意識をしっかりと持ち、周囲と協力しながら課題解決に取り組むことで歌唱に対する自信や楽しみを見いだすことができると考える。

(4) 指導に当たって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア コロナ禍における合唱活動の取り組みとして、積極的なICT活用を進めていきたい。

- ・ Googleclassroom を用いての情報共有の実践。
- ・ Googleclassroom や Googleform を用いての、生徒の意見の集約。（アンケート等含む）
- ・ デジタル教科書（教育芸術社）を用いた授業の展開。

イ 「音楽の魅力の3つの観点」を活用することにより、読譜による理解を深めるとともに、効率よく活動を進めていきたい。

- ・ 読譜におけるポイントを絞って実践することで、読譜に対する苦手意識をなくすとともに、読譜に自信を持たせる工夫。

ウ 録音等を活用し、自分たちの演奏を客観的に鑑賞することで自己の表現を振り返り、改善へとつなげる活動を通して、自主的に取り組む活動を積極的に取り入れたい。

- ・ ICT機器を活用して、場面や共有方法に応じた録音及びデータ共有の実践。
 - ・ 自分の演奏を客観的に捉えるためのポイントの提示。
- エ 音楽の見方・考え方を広げるワークシートを作成し、個の支援や指導の改善に生かしたい。
- ・ 情報端末機器と紙面によるワークシート両者の特性を生かした使い分けの実施。
- オ 現在の社会情勢を踏まえた、新型コロナウイルス感染症対策の実施。
- ・ パーテーションによる予防対策と、グループ活動等の効率化。
 - ・ 拡声器やキーボード等の使用。

6 指導計画(全3時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		< >内は評価方法		
1	<p>◆ 「主人は冷たい土の中に」を鑑賞し、具体的な曲の特徴を耳から見つけ、それらを自分の言葉で説明できるようにする。また、音取りを行い、簡単な読譜を行い次時に繋げる。</p> <p>○ 「主人は冷たい土の中に」を鑑賞し、感じたこと、気付いたことを自分の言葉でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書を活用する。 ・ 「音楽の魅力の3つの観点」を活用する。 <p>○ 「主人は冷たい土の中に」の音取りを行う。</p> <p>○ 音とりができた段階での状況の合唱を録画して記録する。</p>	<p>↑ 知 ↓ ワークシート</p>		
2	<p>◆ 「主人は冷たい土の中に」の歌唱練習を行う中で、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを理解した上で、表現方法について考える。また、本時は前時の耳から得た情報だけでなく、読譜により視覚から得た情報も活用できるようにする。</p> <p>○ 「主人は冷たい土の中に」に用いられている、記号などの要素の確認をし、その意味を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記号の効力について考える。 ・ なぜ、その記号等を作曲者が記譜したのか考える。 <p>○ どのような表現方法が良いか自分の考えをもつ。</p> <p>○ 本時の学習内容が表現できているかを次時で確認するために合唱を録画して記録する。</p>	<p>↑ 知 ↓ ワークシート</p>		
3 本時	<p>◆ 前時までの学習で感じ取った曲想や曲の構成を踏まえ、表現方法を考え実践し、振り返りを行うことで、表現を充実させるための手立てについて理解させる。</p> <p>○ 曲想や曲の構想について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を振り返る。 ・ 楽譜に記譜されている内容の確認をする。 <p>○ 前時までの録画を用いて、自分たちの表現について客観的に振り返ることにより、表現方法についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの演奏を客観的に聴く。 ・ 表現をする上での根拠について確認する。 	<p>↑ 技 ↓ 観察ワークシート</p>	<p>↓ 思 ↓ 観察ワークシート</p>	<p>↓ 態 ↓ 観察ワークシート</p>

7 資質・能力についての関連図

	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等
学校教育目標を三つの柱で整理した資質・能力	物事の本質を追究したり、よりよく自己を生かして協働したりするための知識・技能を身に付ける。	目的に向かって <u>知識・技能を効果的に活用し、よりよいものをつくり上げるための必要な力</u> を養う。	自分と他者の理解を深め、よりよいものをつくり上げ、豊かな <u>自尊感情並びに他者を大切に</u> する感情を育み、 <u>社会に積極的に参画していく態度を養う。</u>
本校音楽科の目標	音楽の多様性を理解し、 <u>音楽のよさや美しさを味わうための知識と、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能</u> を身に付けるようにする。	他者とよりよく協働しながら、 <u>音楽のよさや美しさが伝わる音楽表現を創意工夫したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりするための必要な力</u> を育成する。	自分や他者の表現や聴き方を尊重し、音楽の有効性を感じながら、生活や社会の中の音楽、 <u>音楽文化と感性豊かに関わって</u> いこうとする態度を養う。
本題材の目標	「主人は冷たい土の中に」の曲想や音楽の構造と内容との関わりについて理解するとともに、 <u>創意工夫を生かした表現で「主人は冷たい土の中に」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能</u> を身に付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「読譜力」を高める活動の工夫 ・ 「音楽の魅力の3つの観点」【楽曲の魅力】の活用 ・ ICT 機器の活用による表現方法の振り返りと改善 (教科論 4-(1))(教科論 4-(2)ア)</div>	「主人は冷たい土の中に」の <u>リズム、速度、旋律、強弱などのテクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて</u> 考え、「主人は冷たい土の中に」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「読譜力」を高める活動の工夫 表現の達成を実感することができる活動の工夫 ・ 「音楽の魅力の3つの観点」【楽曲の魅力】の活用 ・ ICT 機器の活用による表現方法の実感 (教科論 4-(1))(教科論 4-(2)ア,イ)</div>	「主人は冷たい土の中に」の歌詞や曲想が表す内容及び曲の表情や味わいに関心をもち、 <u>音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の活動に取り組む。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">表現方法の検討を行い、改善策や根拠について考える活動の工夫 ・ ペア学習・グループ活動の工夫 ・ ワークシートの工夫 (教科論 4-(1))(教科論 4-(2)ウ)</div>
本時の目標	「主人は冷たい土の中に」に用いられる <u>記号等の意味を理解し、正しい発声や身体の使い方などの技能</u> を身に付ける。	「主人は冷たい土の中に」に用いられる <u>記号等の目的</u> を考え、それらをもとに表現方法を工夫する。	「主人は冷たい土の中に」の内容に関心をもち、 <u>音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に活動に取り組む。</u>

8 本時の実際

(1) 授業設計上の工夫

ア 表現を検討する活動の中で、知識・技能の習得を促せるように、また、自身の気づきを促すために ICT 機器の活用を行う。
＜コンテンツの視点で工夫した「読み解き・対話する活動」＞

イ 「音楽の魅力の3つの観点」のうち「楽曲の魅力」を活用し、積極的な読譜を促す。
＜コンテンツの視点を取り入れた「読み解き・対話する活動」＞

ウ 表現の達成確認や効果の実感を伴うようにするために、ICT 機器の活用で振り返りを行い、ワークシート上の楽譜を用いて活動を行う。さらに、これまでの取り組みを振り返ることで、自分たちに適した、または必要な練習法を選択できるようにする。
＜プロセスの視点及びリソースの視点を取り入れた「思考・吟味する活動」＞

エ ワークシートに記述欄及び楽譜を掲載し、書き込む内容をペアやグループ（パート）での活動等で区別し、学習内容の整理を図ることで、改善策の検討や根拠について考える材料を獲得できるようにする。

＜プロセスの視点及びリソースの視点を取り入れた「価値を見つけ・生み出す活動」＞

(2) 本時の目標

ア 「主人は冷たい土の中に」に用いられる記号等の意味を理解し、正しい発声や身体の使い方などの技能を身に付ける。 **【知識及び技能】**

イ 「主人は冷たい土の中に」に用いられる記号等の目的を考え、それらをもとに表現方法を工夫する。 **【思考力、判断力、表現力等】**

ウ 「主人は冷たい土の中に」の内容に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に活動に取り組む。 **【学びに向かう力、人間性等】**

(3) 本時の評価規準

ア 「主人は冷たい土の中に」に用いられる記号等の意味を理解し、正しい発声や身体の使い方などの技能を身に付けている。 **【知識・技能】**

イ 「主人は冷たい土の中に」に用いられる記号等の目的を考え、それらをもとに表現方法を工夫している。 **【思考・判断・表現】**

ウ 「主人は冷たい土の中に」の内容に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に活動に取り組むことができる。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

(4) 本時の評価 ※A：「十分満足できる状況」、B：「おおむね満足できる状況」、C：「努力を要する」状況

観点	評価規準	評価	本校音楽科の評価【評価物】（「努力を要する」状況の生徒への手立て）
知識・技能	技	A	【観察】楽譜の内容を読み取り、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能が歌唱表現に表れている。 【ワークシート】どのような表現を行おうとしているか、具体的に記述している。
		B	【観察】楽譜の内容を読み取り、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を歌唱表現に取り入れようとしている。 【ワークシート】どのような表現を行おうとしているか、記述している。
		C	上記評価に該当しない場合。楽譜の内容と発声法の関連についての確認を促す。
思考・判断・表現	思	A	【観察】どのような表現方法が適切か考える中で、「読譜」により得た知識をもとに、発言したり歌い表そうとしたりしている。 【ワークシート】「読譜」により得た内容をもとに、それらと関連付けながら、どのように歌いたいかについて、自分なりの思いや意図を具体的に記述している。
		B	【観察】どのような表現方法が適切か考え、積極的に発言したり歌い表そうとしたりしている。 【ワークシート】「読譜」により得た内容をもとに、どのように歌いたいかについて、自分なりの思いや意図を記述している。
		C	上記評価に該当しない場合。自分の考えを言葉で表現させ歌唱へ繋げさせる。
主体的に学習に取り組む態度	態	A	【観察】楽曲の曲想や曲の構成に関心を持ち、「読譜」により多くの情報を理解しようとする活動を通して、どのように歌うかについて考えたり、他者と共に歌い表したりする様子が、本題材の学習を通じて見て取れた。 【ワークシート】学習内容をもとに、根拠をもって自分の考えを記述している。
		B	【観察】楽曲の曲想や曲の構成に関心を持ち、「読譜」により多くの情報を理解しようとする活動を通して、どのように歌うかについて考え、もしくは、他者と共に歌い表す様子が、本題材の学習を通じて見て取れた。 【ワークシート】学習内容をもとに、自分の考えを記述している。
		C	上記評価に該当しない場合。学習内容の振り返りを行い、考えをまとめさせる。

(5) 本時の展開 (3/3)

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点(◆は評価の観点)
導入	2分	1 前時の学習を振り返る。 ・ 楽譜に書かれている内容をどのように表現すべきか思いや意図をもつ。 ・ 前時の学習を踏まえ合唱する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚から得た情報(第1時)と、視覚から得た情報(第2時)を確認する。 ・ デジタル教科書を活用する。 ・ 表現のポイントとする箇所に印を付けさせる。(教科論4-(2)ウ) ・ 「音楽の魅力の3つの観点」を活用し、指示を行う。(教科論4-(1)) ・ 具体的な表現方法を検討していくことを確認する。 ・ 1番のみ取り組むことを確認する。
	3分	2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">どうすれば、曲に込められた思いや意図を表現によって伝える事ができるだろう。</div>	一斉	
展開	10分	3 前時の録画を確認し、より伝わる表現の仕方について考える。 ・ Googleclassroomを利用して配布された音源を活用する。 ・ 端末を利用して確認する。 ・ 楽譜に書かれている内容を表現できるように練習する。	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜に記入した内容を実践させる。 ・ 考えた表現を実践できるよう、技術的なアドバイスをを行う。 ・ ワークシートを用いる。 ◆ア, イ, ウ ・ 練習した内容を発揮できるよう声かけを行う。 ・ ワークシートを用いる。 ・ 意見の共有を行う。 ・ 録画を行う。(教科論4-(1)) ・ 互いの発表を聴き、客観的に表現を聴き取ることができたか確認させる。 ・ 気づきを楽譜にメモし、活動を通して学んだことを端末を利用して、記録させる。(教科論4-(2)ア, イ) ・ 振り返りの材料として、発表動画をICT機器を用いて共有する。(教科論4-(2)ウ) ・ 端末を用いて個人の取組状況や、思い等を集約し評価の際に活用する。 ・ 最初の発表からの変化を感じ取るように指示する。 ◆ア, イ, ウ ・ 思いや意図を込めて歌うよう声かけをする。
	7分	4 発表する。 ・ 1番のみ発表する。 ・ 各グループの発表に関する意見をワークシートに記録する。	グループ 一斉	
	15分	5 それぞれの発表を踏まえ、自分たちの表現について振り返り、再度練習する。 ・ 端末を利用して、意見の共有を行う。 ・ それぞれの演奏と自分たちの演奏を比較して考える。 ・ よりよい表現にするためにはどのようにしたら良いのか考える。 ・ 記録を取りながら活動する。	個 グループ	
	5分	6 これまでの学習を踏まえ、個々の表現についての意思をもって合唱する。	一斉	
終末	3分	7 本時のまとめを聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">楽譜の内容を具体的に読み解き、それらを表現しながらも、自身の演奏を客観的に振り返りながら、表現方法を工夫していくことが大切である。</div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現をより充実させるためには、振り返りを行い、試行錯誤しながら工夫していくことが必要不可欠であることに気付かせる。 ・ 今後の活動においても継続的に表現について考えていくよう声かけをする。
	5分	8 本時の振り返りを行う。	一斉	